

施策評価シート

対象事業年度 令和 6 年度

政策	Ⅲ 環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり	施策推進 責任者	政策企画部長・総務部長・港営部長・建設 部長	政策Ⅲ：環境・にぎわい 重点施策3・施策4
重点施策	3 にぎわい創出に向けた再開発の推進			
施策	4 うるおいと魅力のある港湾空間の形成			

1.PLAN(目的・展開内容)

※シート中、「感染症」とあるのは、すべて「新型コロナウイルス感染症」を指す。

目的	サービスの対象者(誰のために)	地域住民、来訪者、就業者、船会社、港湾運送事業者、荷主など名古屋港に集うあらゆる人々	意図(どういう状態にしたいのか)	ガーデンふ頭のイベント開催等により港湾空間の更なるにぎわいや魅力を創出するとともに、名古屋港水族館などのにぎわい施設を活用し、ときめきとやすらぎを感じ、親しまれ、みんなの夢がふくらむ港
	サービスの対象物(何を)	親しまれる施設(集客施設・運河など)やイベントなど港湾のあらゆる機能への環境配慮や自然環境保全の取組		
展開	(重点施策3) ▶ガーデンふ頭では、「多くの人びとを呼び込むにぎわいの創出」、「人々が長くふ頭に滞在できるくつろぎの場の提供」を基本方針として、民間事業者の資金とノウハウを活かした取組を進めます。また、中川運河ににぎわいゾーンの魅力向上に向けて、プロムナードの整備、覆砂による底層環境の改善や水循環による水質改善などに取り組み、人々が水辺に親しむ機会の創出に努めます。さらに、開館から30年以上が経過した名古屋港水族館は、引き続き安定した生物の飼育やさらなる魅力向上を図るため、機能向上に向けた取組を進めます。			
	(施策4) ▶ふれあい・交流拠点であるガーデンふ頭において、海の日名古屋みなと祭や船舶の一般公開等、年間を通じてさまざまなイベントを開催・支援するとともに、SNS等によるタイムリーな情報発信により、名古屋港の魅力向上・拡散の取組を進めます。また、ガーデンふ頭の名古屋港水族館や、新舞子マリナーク、富浜緑地の運動施設等の観光・にぎわい施設を最大限に活用し、港のにぎわいを継続的に創出します。 ▶中川運河において、沿岸用地へのにぎわい施設の誘導や、水循環による水質の改善など、運河再生に取り組むとともに、歴史資産、観光拠点をめぐる海上交通ネットワークの形成を進め、都心部のにぎわいを港に誘導します。 ▶港のにぎわい創出や観光振興、地域経済の活性化等を目的として設立された「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を通じ、クルーズ船社等へのセールスやクルーズ船寄港時の歓迎行事・観光案内を行う等、クルーズ船寄港増加に向けた取組を進めます。 ▶クルーズ船の受入れについては、旅客の利便性や安全性の確保を最優先に考え、より一層受入れ環境の充実・改善に取り組めます。			

重点施策3

2.Do(施策を構成する各事務事業の取組内容等)

4.Action(課題・6年度以降の取組等)

コード	事務事業名 (担当課名)	令和6年度に実施した内容・結果	成果目標名 【指標型】	成果目標	年度							事業進 捗状況 (6年度)	令和6年度の事業進捗状況に対する評価	7年度 以降の 方向性	成果	今後の課題等	7年度以降の取組								
					元	2	3	4	5	6	7														
					上段:成果目標 目標値																				
					中段:成果目標 実績値																				
					下段:事業費(単年度・人件費込・国費除く)(単位:千円)																				
重施03 事01	ガーデンふ頭再開発 の推進 (再開発調整担当)	令和5年度から、愛知県、名古屋市と連携し、計画立案段階から開発主体の誘致までを行政と民間事業者が協力して行う協働の取組(協働事業)を進め、令和6年度には、協働事業の2か年の成果として一つの事業計画案が提出されたことから、本組合は、有識者で構成する評価会議における審査を経て、その成果を確認し、協働事業を完了した。また、開発エリアの確保等に向けた関係者との調整を進めた。	ガーデンふ頭再開発の進捗状況(全3工程)【進行政管理型】	①基本計画の策定 ②基本的な内容の具体化 ③事業者選定・事業化	1	1	2	2	3	2	3	順調	令和5年度から進めてきた協働事業を完了するなど、目標を達成することができた。	継続	維持	開発主体の公募に向けた条件等の整理及び関係者との調整	開発主体の公募に向けて、条件等の整理を進め、事業化を目指すとともに、開発エリアの確保等に向けた関係者との調整を進めるなど、再開発の実現に向け取り組む。								
					1	1	1	1	2	2	-				維持										
					54,027	44,954	138,250	54,610	59,478	47,825	-														
重施03 事02	中川運河にぎわいゾーンの魅力向上 (金城・中川・南5区担当)	老朽化した護岸の改修・補修を実施するとともに、プロムナード整備に着手した。また、東支線では、運河を眺められる視点場の整備、底層改善に向けた覆砂を実施した。	中川運河覆砂進捗状況(全4工程)【進行政管理型】	①現況調査 ②設計 ③工事着手 ④整備	1	2	3	3	4	3	3	順調	中川運河覆砂は、東支線の松重ポンプ所南側水域の一部区間においてダイオキシン類対策が必要となったため、当初の計画期間内での達成には至らなかった。中期経営計画の計画期間が延長となったことから目標値を変更し、令和6年度は、松重船だまり(堀川側)の覆砂を実施し、事業は順調に進捗した。護岸補修については、当初の計画期間内に整備が完了した。また、プロムナード整備については、整備前に老朽化した護岸の改良が必要であることから、北幹線・北支線の老朽化護岸の改良には多大な費用と時間を要し、沿岸用地利用者との調整も必要となるため当初の計画期間では目標を下回った。中期経営計画の計画期間が延長となったことから目標値を変更し、令和6年度は猿子橋左岸南側の階段・スロープを整備し、事業は順調に進捗した。	継続	維持	中川運河覆砂については、ダイオキシン類対策後、速やかに覆砂整備を進める必要がある。また、プロムナード整備については、中期経営計画の計画期間延長に伴う目標値の見直しを踏まえ、着実に事業を進めるよう、関係部署と調整を進める必要がある。	引き続き、東支線における覆砂および北幹線・北支線のプロムナードの整備を進めていく。								
					1	2	3	3	3	3	-														
			護岸補修延長(全1,100M)【進行政管理型】	東支線における既設護岸の補修延長(※最終年度は、令和4年度とする)	350	600	850	1,100	-	-	-	順調													
					500	500	850	1,100	-	-	-														
			プロムナード整備延長(全1,540M)【進行政管理型】	北幹線・北支線におけるプロムナードの整備延長	-	-	300	1,140	1,540	300	350	順調													
					-	-	0	120	250	300	-														
					213,792	205,793	395,535	1,041,446	1,060,537	759,564	-														
			重施03 事03	名古屋港水族館の機能向上に向けた取組(水族館事業担当)	「名古屋港水族館の機能向上に向けた基本構想」を策定した。老朽化が進行した基幹的な設備等の総合検討や最適な管理運営手法の検討等を実施して、基本計画策定のための基礎資料とした。	機能向上に向けた検討の進捗状況(全2工程)【進行政管理型】	①基本構想の策定 ②基本計画の策定											1	2	順調	有識者などから意見を聞き、新たな展示テーマ・コンセプトや施設概要等を取りまとめた基本構想を目標通り策定した。	継続	維持	基本計画の策定に向け、施設概要、長期収支見通し、概算整備費、整備手法等に関して検討していく必要がある。加えて、今後の機能向上に向けた取組の実現を見据え、事業費用の財源確保について検討していく必要がある。	専門家のアドバイスを聞きながら、名古屋港水族館の機能向上に向けた基本計画の策定に向けて取り組んでいく。加えて、事業費用の財源確保について、引き続き、関係部署や関係機関との調整を行う。
																		1	-				維持		
										162,235	-	維持													

重点施策3コスト(合計)	267,819	250,747	533,785	1,096,056	1,120,015	807,389
--------------	---------	---------	---------	-----------	-----------	---------

施策4

2.Do(施策を構成する各事務事業の取組内容等)

コード	事務事業名 (担当課名)	令和6年度に実施した内容・結果	成果目標名 【指標型】	成果目標	年度							事業進 捗状況 (6年度)	令和6年度の事業進捗状況に対する評価	7年度 以降の 方向性	成果				
					元	2	3	4	5	6	7								
					上段:成果目標 目標値														
					中段:成果目標 実績値														
					下段:事業費(単年度・人件費込・国費除く)(単位:千円)														
施04 事01	名古屋港のPR (広報・にぎわい振興担 当)	帆船(1隻)および汽船(2隻)の誘致、「海の日名古屋みなと祭」および「冬のイベント」開催、印刷物「Port of Nagoya」「要覧」「ようこそなごやこうへ」「わたしたちの名古屋港」の発行を行うとともに、広報番組「What's 名古屋港」(3回)・広報紙「広報なごや港」(4回)・新聞広告(15回)の製作、ホームページおよびSNS(Facebook、Instagram、X、YouTube)の運営・Instagramフォトコンテストの開催、「みなと体験ツアー」(13回)・PRイベントの実施や民間事業者による花火イベントの調整協力を行った。	SNS投稿への「いいね」 等 の数(件) 【単年度管理型】	名古屋港の関心を測る指標としてSNS(Facebook、Instagram(令和2年度～)、XおよびYouTube(令和4年度～))の投稿記事への「いいね」等のリアクション数を設定した。目標値は過去実績を踏まえ着実な向上を目指して設定した。	17,000	23,000	24,000	37,000	38,500	38,500	40,000	目標値を やや下 回る	SNS投稿について、目標値はやや下回っているが投稿数を増やしたことで実績数は昨年度比170%と大幅に増加した。 船舶一般公開見学者数について、一般公開を最大5回見込む中で、最も集客の多い南極観測船「しらせ」の入港が今年はなかったものの、練習船入港時に積極的な呼びかけを行い、非常に多くの方に見学いただけた。	継続	維持	利用者にとって、分かりやすく伝わりやすい情報発信とするための工夫や方法、利用者ニーズへの柔軟な対応が必要である。 投稿数を継続的に維持することによりSNS投稿への「いいね」の数の実績値の向上に努める必要がある。 船舶一般公開見学者数は寄港する船舶の数によって左右されることがあることから、一隻ごとの集客促進に努めていく必要がある。	情報発信の強化や、さらなる効果的なPRを行っていくため、多様なニーズの把握に努めるとともに、それらに対する的確な情報発信の工夫を図っていく。		
					22,900	21,881	30,115	40,083	18,413	30,860	—								
					船舶一般公開見学者数(人) 【単年度管理型】	7,700	7,700	7,700	7,700	7,700	7,700				7,700			目標値を やや下 回る	維持
						17,509	0	0	0	3,857	6,793				—				
					145,858	114,055	129,693	131,374	156,277	154,987	—								
施04 事02	名古屋港水族館の振興 (文化交流施設担当)	指定管理者とのモニタリングを毎月実施した。指定管理者の業務内容は本組合が求める水準を上回ると評価し、それを本組合ホームページで公表した。指定管理者が、南極をテーマにした特別展の開催や、県外の大型商業施設などでPRブースを出展して営業活動に取り組むとともに、SNSを積極的に活用して集客に努めた。その結果、利用料金収入で運営でき収支不足に伴う指定管理料の支出は無く、収支の余剰については本組合へ納付された。 また、令和6年度末に広報パートナーの協力を得て、平成13年の北館開館以来、初めて「イルカパフォーマンスBLUE ECHO」として教育的内容を取り入れたパフォーマンス構成、映像、BGMに刷新した。	入館者数(万人) 【単年度管理型】	指定管理者の目標値を参考に、直近5年の最高値(H29:約220万人)を5%上回る230万人(令和5年度と同等)を令和6、7年度の目標値とする。	220	220	225	225	230	230	230	目標値を 上回る	令和6年度の入館者数は、県内の観光地を訪れる訪日外国人旅行者の増加、特別展が好評を博したこと、バンドウイルカの赤ちゃんが誕生したことなどの要因により、歴代3位の入館者数となった。 来館者の満足度については、調査方法の見直しを行い、評価方法を水族館全体の総合評価から展示エリアごとの個別評価に変更したため、単純な比較は難しいが、令和5年度までと比較してやや下回ったものの目標を上回ることができた。	継続	拡大	建設から30年以上が経過しているため、設備の延命化を図る必要がある。 また、給排水設備及び電気・機械設備等については、老朽化が著しく、補修用部品の保有期間が過ぎた交換部品が多くなっており、事業の継続のためにも計画的な更新が必要である。 新たな市場の拡大を図るため、訪日外国人旅行者等の新しい顧客層の開拓の取組を行っていく。			
					200	92	132	206	244	241	—								
			来館者の満足度(%) 【単年度管理型】	80.0	80.0	83.0	83.0	85.0	85	85	目標値を 上回る	維持							
				98.0	—	99.5	98.5	96.7	93	—									
				937,896	1,169,793	1,090,665	219,451	645,876	354,627	—									
				—	—	—	—	—	—	—									
施04 事03	金城ふ頭における交流拠点開発の円滑な推進 (金城・中川・南5区担当)	大規模イベント開催時における交通対策等について、名古屋市と連携し港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行うことで、物流への支障を防ぐことができた。	港湾関係者等の意見 に対応した割合(%) 【単年度管理型】	交流拠点開発に伴う港湾関係者等からの意見・苦情等に対応した割合/意見・苦情等の件数×100(意見・苦情等が0件の場合は100%とする) 意見・苦情等の件数 令和元年度:7件、令和2年度:4件、令和3年度:7件、令和4年度:3件、令和5年度:7件、令和6年度:2件	100	100	100	100	100	100	100	目標値 どおり	国際展示場での催事に起因する周辺道路への滞留対策、一般車両と物流車両との錯綜について、名古屋市と連携し対応することで、目標を達成した。	継続	維持	物流機能と共存した交流拠点開発を進めるにあたり、大規模イベント時等の交通対策について、港湾関係者の意見を踏まえながら、引き続き、名古屋市や関係機関等と連携し進めていく。			
					100	100	100	100	100	100	—								
					11,926	11,926	11,700	11,700	11,830	11,750	—								
					—	—	—	—	—	—	—								
施04 事04	魅力ある港湾景観の形成 (環境課)	名古屋港カラー計画について6件の審査を行った。景観アドバイザー制度について2件の相談を受けた。令和6年11月より、名港トリトンのライトアップを再開した。	カラー計画マニュアルとの整合率(%) 【単年度管理型】	臨港地区内行為の届出等において、建築物等がカラー計画マニュアルと整合するように調整できた件数の割合を指標とする。(企業色や整合する既製品がない場合は対象外とする。)カラー計画マニュアルとの整合件数/審査件数×100(%)	100	100	100	100	100	100	100	目標値 どおり	カラー計画マニュアルは、建築行為等の際に整合への協力要請を行っており、マニュアルの整合率は企業色を採用した建物を除き、目標値どおりであった。 名港トリトンのライトアップは、令和6年11月より再開した。	継続	維持	カラー計画マニュアルは策定から10年以上、景観基本計画については20年以上が経過しており、状況変化に伴う計画内容の見直しの必要性を確認していく必要がある。 名港トリトンについては、ライトアップ設備のあり方に関して、関係者と調整する必要がある。			
					100	54	50	25	75	100	—								
			歴史資源5施設の維持管理マニュアル作成率(%) 【進行政管理型】		40	60	80	100	100	—	—	順調			維持				
					20	80	80	80	80	—	—								
			名港トリトンライトアップの検討の進捗状況(全3工程) 【進行政管理型】		①ライトアップ設備のあり方について関係者と検討開始 ②耐震補強工事後のライトアップ再開に向けた調整 ③その後のライトアップ設備のあり方に関する関係者合意				1	2	2	3			順調		維持		
								1	1	2	—								
					3,698	13,867	6,941	10,815	23,773	12,033	—								
施04 事05	名古屋港ポートビルの管理・運営 (文化交流施設担当)	指定管理者とのモニタリングを毎月実施した。また、モニタリング結果を基に、指定管理者の業務内容を評価し、それを名古屋港管理組合のホームページで公表した。 ガーデンふ頭の回遊性を高めるために名古屋港水族館との周遊イベントを実施した。また、名古屋港ポートビル開館40周年記念事業として、1階無料休憩所の改修を行うとともに、特別展、記念講演会、体験乗船会などの記念イベントを開催した。 加えて、名古屋港ポートビルおよび南極観測船ふじのさらなる認知度向上を目指し、イベント情報のほか景観等も素材とした、SNSへの投稿を行うなど情報発信を行った。	入館者数(万人) 【単年度管理型】	指定管理者の目標値を参考に、平成30年度の入館者数(46万人)を2万人上回る48万人(令和5年度と同等)を令和6、7年度の目標値とする。	46	46	47	47	48	48	48	目標値を 上回る	令和6年度の入館者数は、県内の観光地を訪れる訪日外国人旅行者の増加、回遊性を高めるための名古屋港水族館との周遊イベントの実施などにより、令和5年度より大幅に増加し、目標値を上回った。 令和6年度の入館者の満足度は、目標値を上回っており、展示内容等への意見についても概ね良好であった。	継続	拡大	施設の老朽化により維持修繕が増える中で、優先順位を定めることで、支出の平準化を目指す。			
					45	15	25	38	47	55	—								
			来館者の満足度(%) 【単年度管理型】		80	80	83	83	85	85	85	目標値を 上回る			維持				
					85	—	85	86	86	86	—								
					152,789	133,489	134,362	98,088	146,559	213,205	—								
施04 事06	名古屋港湾会館の管理・運営 (文化交流施設担当)	指定管理者とのモニタリングを毎週(週間モニタリング)および毎月(月間モニタリング)実施した。また、モニタリング結果を基に指定管理者の業務内容を評価し、それを名古屋港管理組合のホームページで公表した。 備品の交換などにより利用しやすい会議室を提供することに努め、2,746件(令和5年度比3%増)の利用があった。	会議室の利用率(%) 【単年度管理型】	平成30年度の利用率(33%)を2%上回る35%を令和5年度の目標値とする。 (利用率:提供可能な会議室数のうち使用された会議室数の割合)	33	33	34	34	35	35	35	目標値を 上回る	受付運営業務、貸会議室運営業務共に、スムーズな運営がなされたことにより、令和5年度より利用率が増加し、目標値を上回った。	継続	維持	利用者のニーズを把握し、さらなる利用率の向上に向けた取組を行っていく必要がある。	引き続きモニタリングを実施するとともに、施設の良好な維持管理、高質な利用者サービスの提供に向け、指定管理者に対し助言を行っていく。		
					32	21	27	35	35	36	—								
					69,803	75,968	65,758	61,646	61,413	67,441	—								

4.ACTION(課題・6年度以降の取組等)

2.Do(施策を構成する各事務事業の取組内容等)

コード	事務事業名 (担当課名)	令和6年度に実施した内容・結果	成果目標名 【指標型】	成果目標	年度							事業進捗状況 (6年度)	令和6年度の事業進捗状況に対する評価	7年度以降の方向性	成果	今後の課題等	7年度以降の取組	
					元	2	3	4	5	6	7							
					上段:成果目標 目標値													
					中段:成果目標 実績値													
					下段:事業費(単年度・人件費込・国費除〇)(単位:千円)													
施04 事07	臨港緑地の管理・運営 (文化交流施設担当)	指定管理者とのモニタリングを毎月実施し、モニタリングの結果をもとに、指定管理者の業務内容を評価し、それを名古屋港管理組合のホームページで公表した。また親しまれる港づくりのため臨港緑地の管理・運営に加え名古屋港ゴルフ倶楽部でのヨガイベントや新舞子マリナーパークでのテント展示会などのイベントを開催した。なお、名古屋港ゴルフ倶楽部については、指定管理者からの提案により、指定管理業務により発生した利益の一部の納付を本組合が受けている。	利用者数(万人) 【単年度管理型】	指定管理者の目標値を参考に、平成30年度の野球場、テニスコート、運動広場、サイクリングロード、マリナーパーク(魚釣り含む)およびゴルフ場の利用者数(52万人)を12%上回る58万人(令和5年度と同等)を令和6、7年度の目標値とする。	56	57	58	58	58	58	58	目標値をやや下回る	利用者数は夏休み期間中の南海トラフ地震臨時情報の発表や長期に渡る変則台風の到来など、自然災害の影響により目標値をやや下回った。利用者の満足度については目標値を上回った。	継続	拡大	各種イベント開催等により利用促進の取組を強化することで、利用者数を拡大させるとともに、効率的な施設の維持管理に努める必要がある。	引き続きモニタリングを実施するとともに、さらなる施設の良好な維持管理と高質な利用者サービスの提供に努めるとともに、イベントを実施することで多くの方に利用してもらえるよう、指定管理者に対し指導・助言を行っていく。	
				利用者の満足度(%) 【単年度管理型】	平成30年度の満足度(75%)を5%上回る80%(令和5年度と同等)を令和6、7年度の目標値とする。	76	77	78	79	80	80	80						目標値どおり
					83	78	78	82	80	81	—							
					539,200	378,243	353,441	418,861	327,545	340,042	—							
					施04 事10	海上交通ネットワークの形成 (金城・中川・南5区担当)	海上交通ネットワークの形成を進めるため、利便性の向上に向け金城ふ頭小型桟橋の整備工事を進めた。	金城ふ頭小型桟橋整備の進捗状況 (全4工程) 【進行政管理型】	① 基本計画 ② 基本設計 ③ 実施設計 ④ 整備	2	3	3						4
2	3	3	3	3						4	—							
43,209	44,133	9,900	326,224	188,934						184,463	—							
施04 事11	クルーズ船誘致の推進 (みなと振興課)	ホームページでクルーズ船の入港予定を公表するとともに、Instagram等のSNSを活用し、クルーズ船の入出港等に加え、セミナーの開催などについて情報発信した。また、クルーズフェスティバル名古屋2024に出展し名古屋港や寄港地観光等をPRするとともに、セミナーでは、一般の方々にも参加していただき、クルーズ旅行の魅力を紹介した。	情報発信数(件) 【単年度管理型】	一般市民向けにSNS等を活用したクルーズ船情報等発信数	10	30	33	36	40	51	56	目標値をやや下回る	SNSの活用方法については、広報アドバイザーの意見を踏まえ、X(twitter)やFacebookに重複して投稿するのを止め、Instagramを中心に情報発信を行った。その結果、情報発信数は目標値を下回ったものの、外航クルーズ船の寄港増加の機会を捉え、効果的な情報発信ができた。また、出港時間の遅れなどについてもタイムリーな情報発信ができた。	継続	維持	令和7年度より、クルーズ船の受入業務については、指定管理者制度の導入に伴い名古屋港埠頭株式会社へ移行となったため、同社と密に連携をとり、適切な情報発信をしていく必要がある。	名古屋港埠頭株式会社との連携を図りながら、クルーズ船の今後の寄港増加の機会を捉え、引き続き積極的かつ効果的な情報発信を行っていく。	
					10	15	20	44	51	45	—							
					18,732	17,957	17,605	17,686	17,958	18,048	—							
施04 事12	クルーズ船乗客の安全で円滑な受入対応 (みなと振興課)	ガーデンふ頭3号岸壁改良工事の影響により、入港するクルーズ船の一部をガーデンふ頭2号岸壁、金城ふ頭80・81号岸壁で受け入れを行った。外航クルーズ船28隻、国内クルーズ船10隻の合計38隻について、安全で円滑な受け入れを行った。	受入対応に起因する事故件数(件) 【単年度管理型】	クルーズ船の受入対応を業務として遂行する上で、安全かつ円滑に取組むことが第一と考える。本組合が取組むクルーズ船受入対応に起因する事故件数を0件にすることを目標とする。	0	0	0	0	0	0	0	目標値どおり	受入に起因する事故件数は0件で、目標を達成することができた。	継続	維持	今後、クルーズ船の寄港の増加が想定されるため、安全で円滑な受け入れ態勢を確保しつつ、更なる受入費用の削減の検討が必要である。	本事業は、令和7年度より、指定管理者である名古屋港埠頭株式会社が行うため、同社と連携しながら、乗客の安全で円滑な受け入れ態勢を確保しつつ、更なる受入費用削減策を検討していき、モニタリングを通じて確認していく。	
					0	0	0	0	0	0	—							
					26,951	19,545	20,021	48,799	140,744	148,149	—							

施策4コスト(合計)	1,950,062	1,978,976	1,840,086	1,344,644	1,720,909	1,504,745
合計(重点施策1+施策1)	2,217,881	2,229,723	2,373,871	2,440,700	2,840,924	2,312,134

3.CHECK(成果目標の状況・構成事務事業の妥当性)

施策 成果目標	実績等		年度							成果目標の達成度に対する評価(外部要因等があればその旨を踏まえて記載)
	目標値	人	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
交流施設の来場者数	目標値	人	754万	756万	768万	781万	800万	800万	800万	令和6年度の交流施設の来場者数は、金城ふ頭への来訪者の増加により目標を達成した。
	実績	人	714万	320万	452万	656万	790万	840万	-	
クルーズ船入港隻数	仮目標値※	隻	45	50	55	60	60	60	60	受入環境の改善及び利便性の向上を図りながら、クルーズ需要の喚起及び寄港地としての魅力発信に取り組んだ結果、目標値は下回るものの、前年度を上回った。なお、外航クルーズ船の寄港回数は過去最高を記録した。
	実績	隻	26	7	16	27	30	38	-	

※ 仮目標値 = 初期値(30年) + $\frac{\text{目標値(5年)} - \text{初期値(30年)}}{5\text{年間(中期経営計画期間)}}$ × 30年からの経過年数

構成事務事業の妥当性(施策目的を達成するために構成した事務事業に不足や問題点はないか?)	
適正・見直しが必要	

4.ACTION(課題・6年度以降の取組等)